

図書館総合展：平成27年度大学図書館シンポジウム
『2020年のNACSIS-CAT/ILLを考える』
平成27年11月12日(木)

「これからの学術情報システム 構築検討委員会」からの報告

京都大学附属図書館 事務部長
甲斐 重武

内容

- 「これからの学術情報システム構築検討委員会」
(通称「これから委員会」)
- これまでの1年、これからの1年
- 「これから委員会」からの情報提供
- 2020年(5年後)のNACSIS-CAT/ILLを考える
- 今後のNACSIS-CAT/ILLを考えること
= 今後の大学図書館を考えること

はじめに:前提

- 2020年のNACISIS-CAT/ILLを考える:2つの方向性
- intensive : データベース、レコード単位、図書館システム、目録規則、技術動向, etc.
- extensive : 大学図書館の業務体制、大学の他部局との連携、コンソーシアム、公共図書館・国立国会図書館、世界的な図書館動向, etc.
- ILLもあるが、本日はCATを中心に
- ERDB(電子情報資源)もあるが、ここはCAT(印刷体資料)を中心に

これから委員会

大学図書館と国立情報学研究所との
連携・協力推進会議

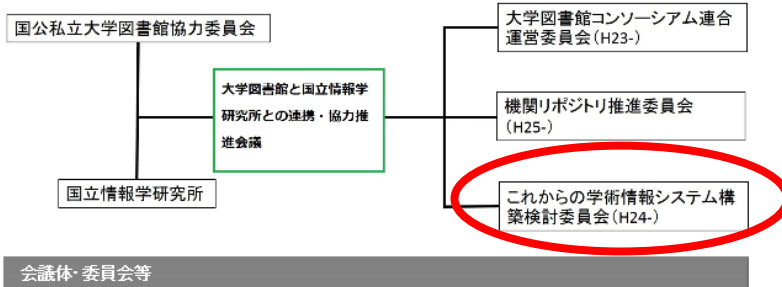
HOME > 組織

組織

- 組織図
- 会議体・委員会等
- 諸規定

組織

組織図



会議体・委員会等

- 大学図書館コンソーシアム連合
- 機関リポジトリ推進委員会
- これからの学術情報システム構築検討委員会

H24(2012)6月～
電子情報資源を含む総合
目録データベースの強化

- H26(2014)7月、連携・協力推進会議
 - 「**目録所在情報サービス**の将来計画の検討は、重要な課題」
 - 「検討を加速させるためにも**2020年には**現在の**ような枠組みでの目録システム**は終了していることを**想定して**」「議論していただきたい。」

H26(2014)10月～「これから委員会」の新たなメンバーで検討開始

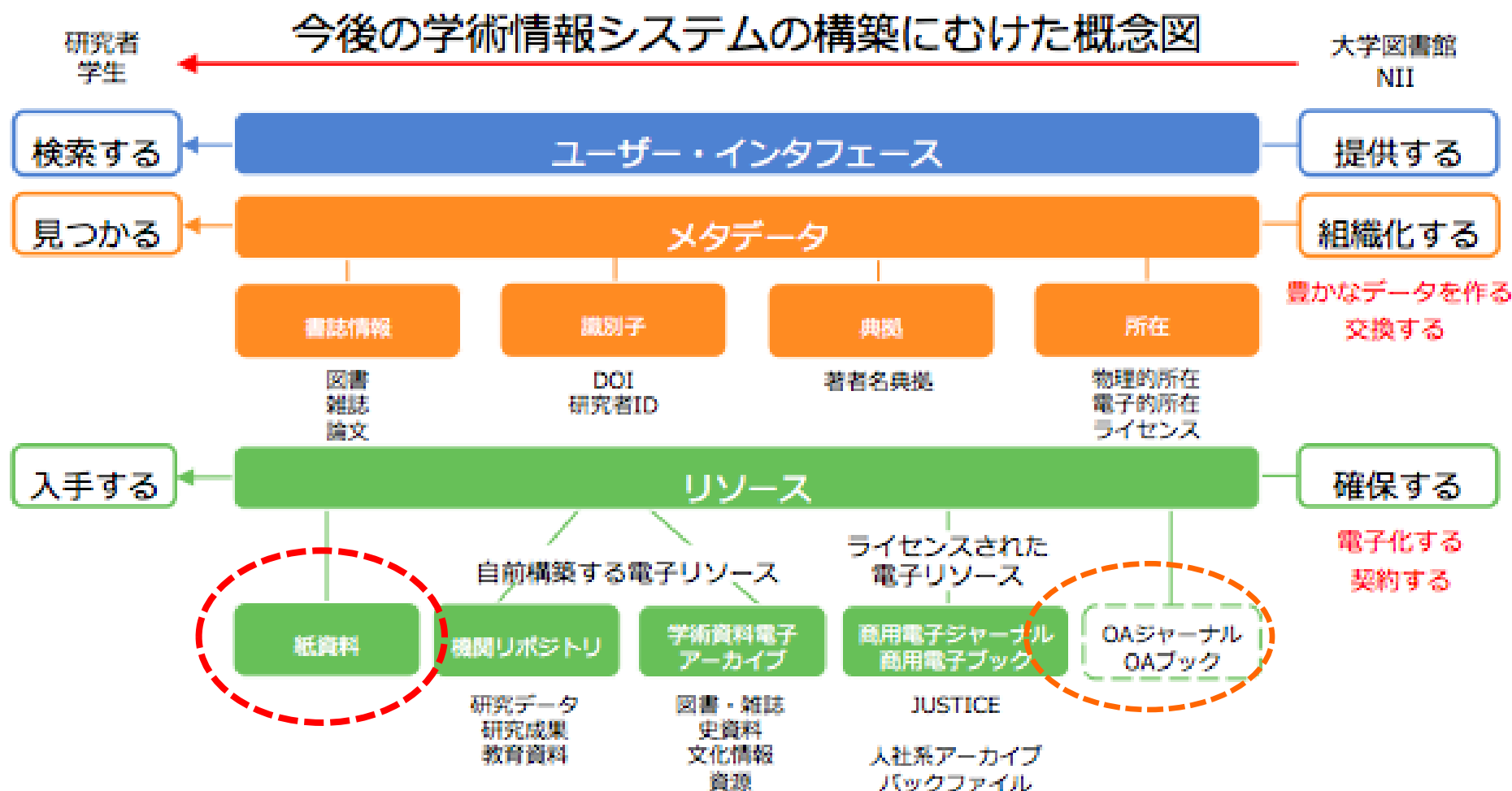
これまでの1年

- 2014.10～2014.12
「目録システムは終了」という誤解の払拭
- 2015.1 本格協議、ISO-ILLプロトコル集中検討も
- 2015.2 連携・協力推進会議で経過報告
- 2015.3 論点整理
- 2015.6 「これからの学術情報システムの在り方
について」周知とサイトでの情報提供
- 2015.7 連携・協力推進会議
- 2015.10 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化につ
いて(基本方針案の要点)」

これからの1年

- 2015.11～2016.1 各協(議)会での検討
 - 「これから委員会」及び「検討部会」の検討状況を参照
- 2016.2 連携・協力推進会議
 - 基本方針案の協議。
- 2016.3～2016.6 各協(議)会での合意形成
 - 大学図書館等の意見集約。基本方針案の承認
- 2016.7 連携・協力推進会議
 - 基本方針案の承認。2020年に向けた具体作業開始

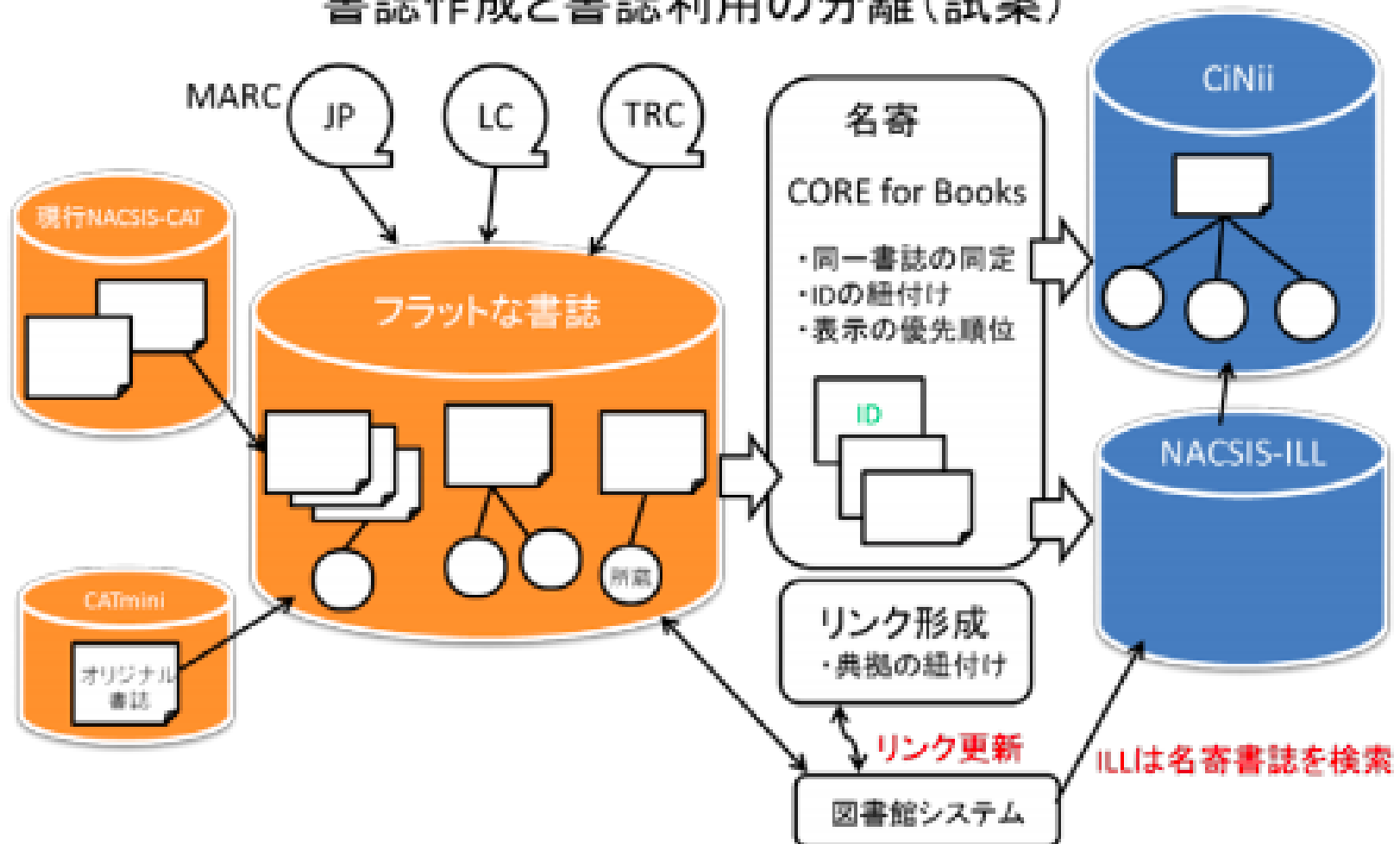
進むべき方向性



NACISIS-CATの軽量化・合理化 (再構築) - 4つのポイント -

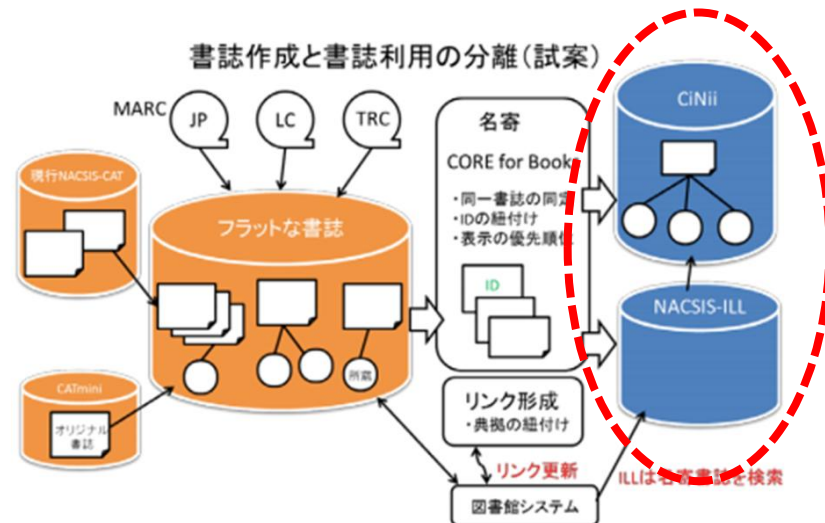
書誌作成と書誌利用の分離

書誌作成と書誌利用の分離(試案)



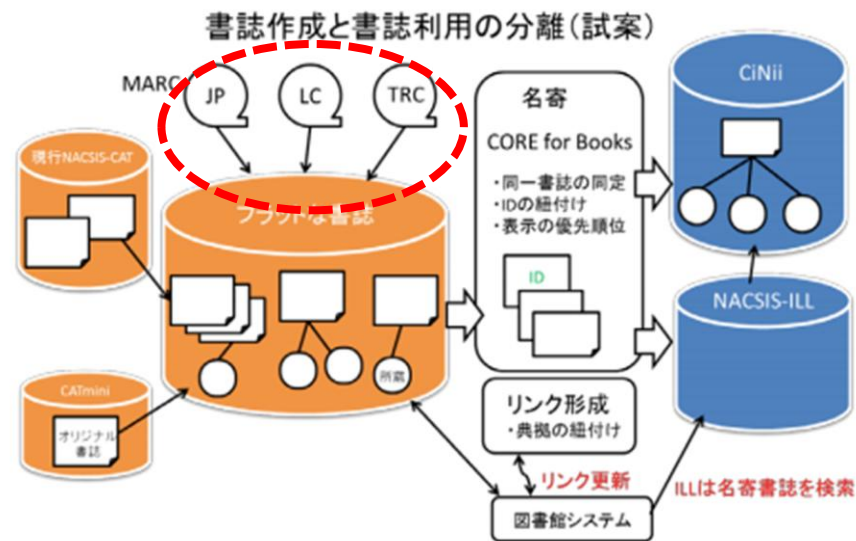
(1) 軽量化

- 総合目録的機能の実現方法の見直し
 - 書誌利用(検索)機能と, NACSIS-CATが担う書誌作成機能とを分離
 - かつNACSIS-CATにより作成すべき書誌情報を精査



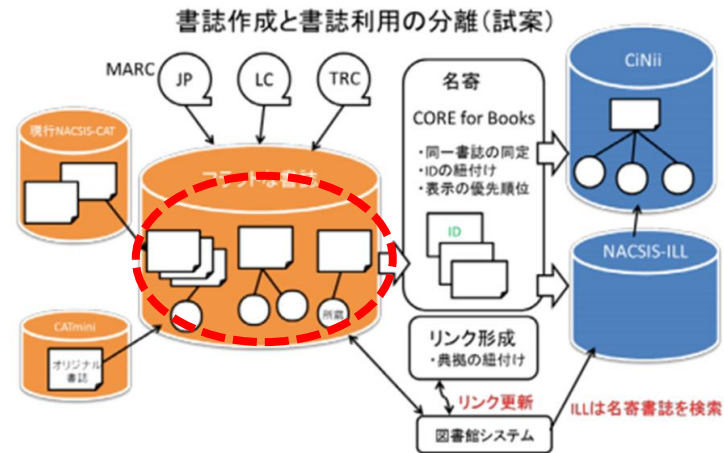
(2) 効率化

- 他機関・組織の作成・提供データの活用
 - 外部MARC: 参照ファイルとしての利用から直接利用への変更等。



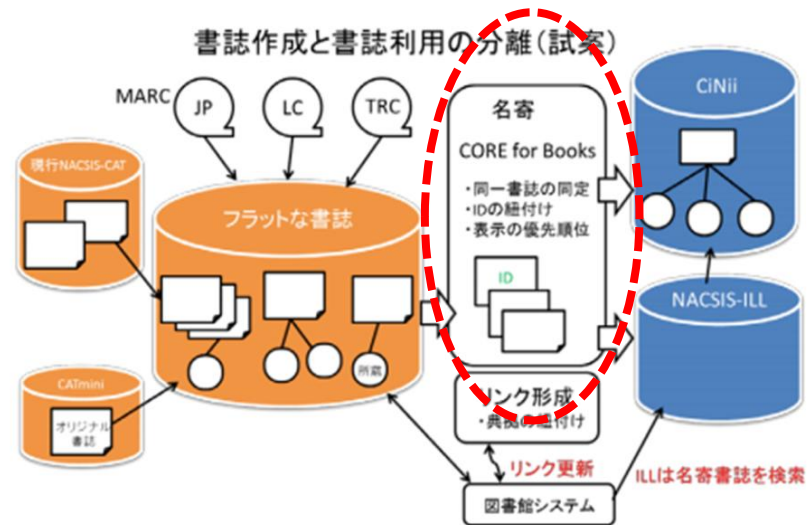
(3) 強化

- 他機関・組織が作成・提供するデータとの連携
 - NACSIS-CAT固有のデータベース構造・入力基準等の見直し。
 - 書誌レコード作成単位，書誌レコード間リンク等の見直し。



(4) 合理化

- 品質管理(重複排除)
 - 自動的書誌同定技術の活用
 - 管理体制の再整備



移行スケジュール(案)

(1) 2020年

新システムの運用開始を目指す

(2) 2020年～2025年

段階的に新システムへの移行を進める。
現行システムの利用も可能とする。

大学図書館のシステム対応や業務体制の整備,
諸機関との調整。

2020年まで

- 2016 システム要件定義、
ローカルシステム影響評価・調整
ILL方式の検討
- 2017～2018 システム開発、テスト
運営方式等の検討
- 2019 実証テスト、評価・修正、
運営方式の微調整
- 2020 新システム開始

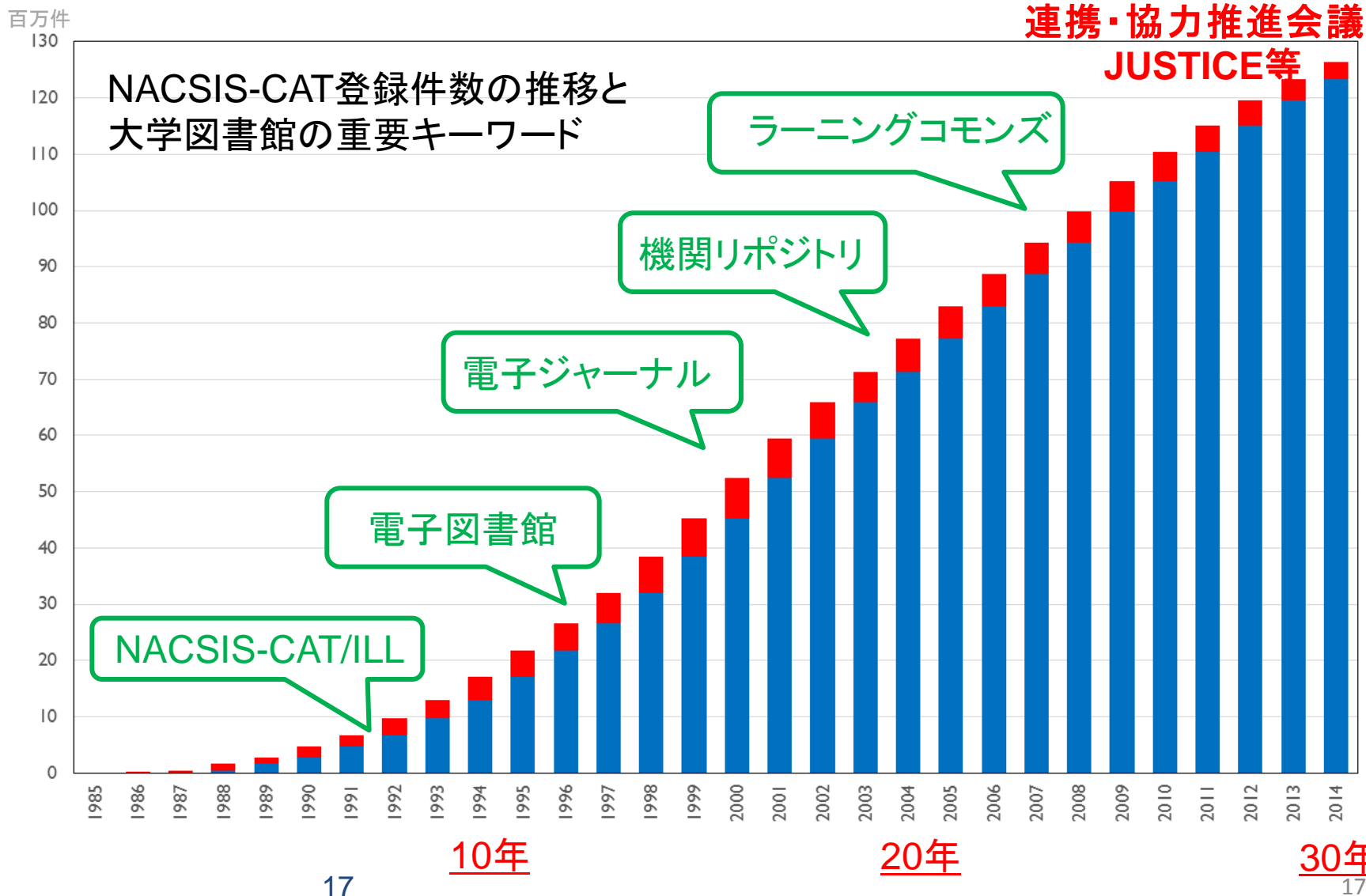
時間を要する課題

- ネットワーク・システムの運用主体
- ネットワーク・システム以外の運用主体
- コンソーシアムの活動(JUSTICE,機関リポジトリ)

- 経費負担・分担モデル
- 人材の確保・育成・教育
- 大学図書館システム

- 書店・出版社・派遣企業等
- 大学の評価・教務・研究支援とのシステム連携

NACSYS-CAT/ILLと大学図書館の重要課題



おわりに: 2020年の大学図書館は?

- 新たな大学図書館の重要課題は?
- NACSIS-CAT/ILLから得られる教訓
- 大学の目的実現を支援する大学図書館